

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	人間福祉研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策(院)(専門)

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究科における教育成果の内容を検討し、成果を評価するための具体的な基準や指標の設定する。	→大学院諸問題検討委員会による上記課題に関する年4回以上の検討委員会の開催。	B	B	B	B	/
2. 研究報告会を開催したり、研究成果の報告機会を設置する。	→年1回の研究報告会の実施。	A	A	A	A	/
3. 研究科における教育全体を評価する全体的なシステムの導入を検討する。	→大学院諸問題検討委員会による大学院システム評価に関する年4回程度の定期的な検討委員会の開催。	D	C	C	B	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	研究科全体の教育成果の内容の検討および成果を評価する基準や指標の設定という目標については、大学院諸問題検討委員会において、昨年に引き続き検討を重ねている。後期課程においては、具体的な成果を評価する基準や指標は博士学位の取得者数があげられるが、2012年度には6名が博士学位を取得したので、一定の成果をあげたと評価できる。
目標2	後期課程の学生については、毎年2月に学生の研究発表の場である後期課程成果報告会を開催している。また、前期課程の学生の研究発表の場はこれまで設けていなかったが、大学院諸問題検討委員会において前期課程中間報告会を開催することを決定し、2013年5月から実施予定である。
目標3	大学院諸問題検討委員会で検討することになっているが、研究科としては全体的なシステムの導入まではまだ至っていない。ただし、大学院諸問題検討委員会においてすでに何度も教育全体のあり方を検討してきており、入り口である入試から出口である論文提出、修了、そして就職までのあり方を議論してきている。
備考	